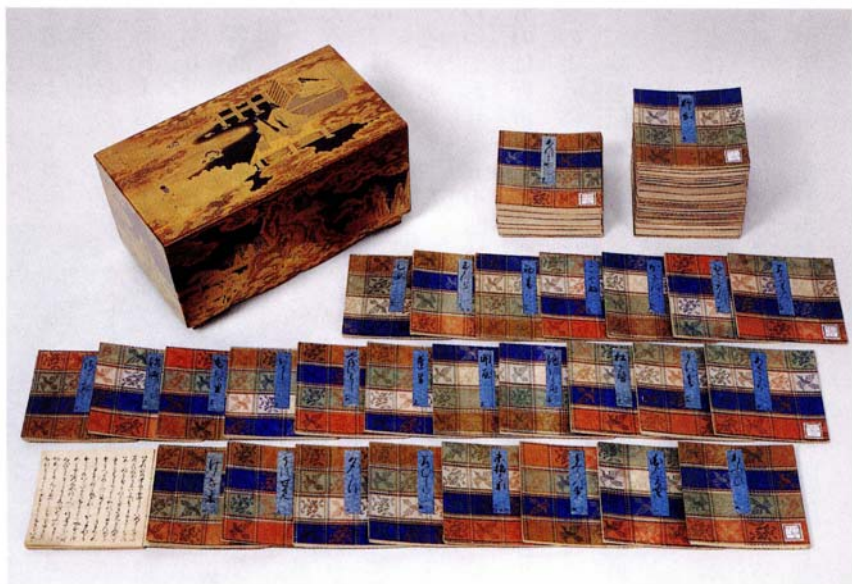
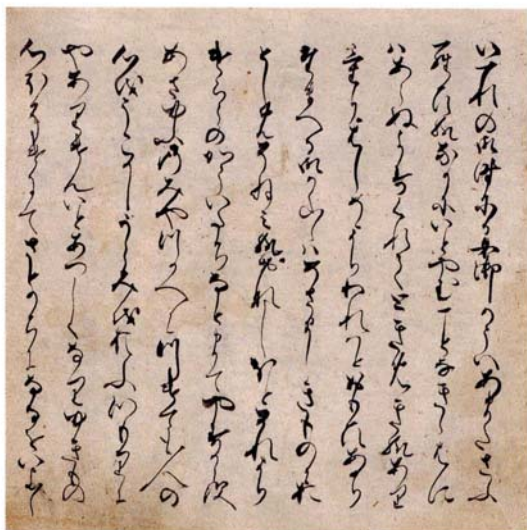


やまとの名品

天理図書館



げん じ もの がたり くに ふゆ ほん
源氏物語 国冬本

伝津守国冬等筆 54巻54冊

鎌倉末期・室町末期写

縦 16.5cm 横 16.5cm

平安の昔、宮中に仕える女性紫式部によって著された『源氏物語』は、五十四帖にも及ぶ長編の物語である。

帝の子として生まれながら源氏の姓を賜って臣下となった主人公とさまざまな女性たちとの恋を中心に、多くの登場人物の心の機微を描いた物語は、人々の心をとらえ、成立当初より愛読されている。

各時代を通じて多くの写本が伝えられているが、成立当時の伝本は確認されておらず、今は鎌倉時代のものが最古の写本となっている。

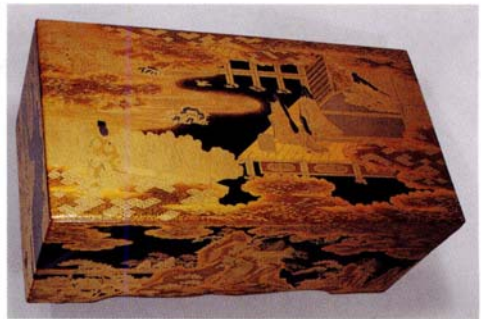
掲出の国冬本は鎌倉時代末期から室町時代末期にかけて

の写で五十四帖の揃い。

複数の筆者によって書写された寄合書だが、その中に鎌倉時代末期の一筆十二帖があり、これを歌人として名高い津守国冬（一二七〇～一三二〇）

筆と伝える。『源氏物語』の伝本は、鎌倉期までは多くが一巻一帖といった形で伝わっており、五十四帖揃いのものは貴重であるうえに、本書のように揃いの中に一筆の十二帖を伝えるものは稀である。

拵目ごとに花鳥を織り出した綴子表紙で、各冊色替わりの仕立てが美しい。光源氏が



幼い若紫を垣間見ている情景を描いた、豪華な蒔絵箱に収められている。また今年、著

者の日記『紫式部日記』の中で『源氏物語』の存在が確認できる寛弘五年（一〇〇八）からちょうど一千年の節目に当たるとされ、『源氏物語』関係書を多く所蔵する本館でも特別展を予定している。

（天理図書館 西口尚子）

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>
「特別展・源氏物語－千年の時をかさねて」を4月12日(土)～30日(水)に開催します(入場無料)。4月18、29、30日は閲覧休み。ただし展覧会は入場可です。